

## エクスプローラー・オブ・ザ・シーズのギリシア諸島クルーズ乗船記(2)

2025.8.15 池田良穂

イタリアのラベンナ港を夕刻に出港したRCIの「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は、2日目の終日航海日をはさんで、3日目の朝にエーゲ海のサントリニ島に到着して、島内の静穏域で止まりました。そこには既に帆装クルーズ客船「クラブメド2」と、「MSC シンフォニア」の2隻が停泊していました。いずれも錨は下ろしておらず、自力で定点に留まる操船をしていました。投錨に規制がかかっているのかも知れません。この水域には、小型クルーズ客船用のブイがいくつか設置されていましたが、このブイを使っている船はいませんでした。

ここではクルーズ客船が着岸できる岸壁がないのでテンダーボートによる上陸となります。ギリシア政府はクルーズ客船搭載救命艇等でのテンダーサービスを制限しており、ここでもすべてサントリニ島の地元ボートがテンダーサービスを行いました。「エクスプローラー」の周りにも10隻以上の大小のボートが集まり、8時半から一斉にテンダーサービスが始まりました。オプショナルツアーカーは島の北部の平地にある港まで海上を移動し、個人で観光する乗客は絶壁下の岸壁まで行って、そこから徒歩またはロバに乗って坂道を上がるか、ロープウェイで絶壁上の町まで上がりまます。ロバもロープウェイも同じ料金でした。同行した孫たちはロバで、筆者らはロープウェイで登りました。絶壁からの景色は絶景。眼下に3隻のクルーズ客船が停泊し、時々、フェリーや高速旅客船も通過するのでシップウォッ칭・ファンとしてはたまりません。カフェで冷たい飲み物を飲みながら過ごしました。飲み物の値段はとても高かったです。この景色が楽しめるのであればしかたありません。



サントリニ島の断崖絶壁の上に白壁の街が広がります。先着していた「MSC シンフォニア」の姿がありました。



テンダーサービスのために「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」の周辺に集結したテンダーボート群です。



自分が乗っている船の全景写真はなかなか撮れませんが、テンダーサービスがあるとばっちりと撮れます。「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」のよい写真が撮れました!!



テンダーボートからの撮影です。「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」の船首越しに、「MSC シンフォニア」と「クラブメド 2」の姿が望めました。



断崖の上のカフェからのエーゲ海の絶景です。下に見える港からテンダーボートが発着します。一番左に位置する「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」が一番大きいはずですが、遠いために一番小さいように見えます。

サントリニ島には夜 10 時まで停泊して、多くの乗客が島での食事などを楽しんだようです。翌朝早くに、船はピレウス港に到着しました。この港はギリシアの首都アテネの外港で、客船の入る港域は 1ヶ所に集中しており、その港域の東岸がクルーズ客船、西岸が大型カーフェリー、一番奥が高速カーフェリー・高速旅客船・近隣離島へのフェリーと高速船の岸壁になっています。

乗船していた「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」は、港との関門の近くに着岸して、部屋のベランダからは出入港するすべての客船の姿を見る事ができました。詳細は、次号の会誌 Cruise & Ferry で紹介しますので、ここでは代表的な船の写真だけをご披露します。

朝に一斉に出港するフェリーが一段落したところで、下船して、近隣諸島航路のフェリー岸壁に行き、エギナ行きのフェリーに乗船して、片道 1 時間半の航路を一往復しました。途中、ピレウス港への入港待ちや、係船された中古貨物船、そしてフェリー・高速客船の姿をたくさんみることができました。

ピレウス港に戻って、同じ岸壁からであるサラミス島行の小型客船に乗船して、往復。こちらの航路では、ギリシア船主が購入して係船中のたくさんの中古船、造船所で修理中の船、そして到着したサラミス島ではたくさんの両頭フェリーの姿をみることができました。



まだ薄明りの中、クレタ島から到着した高速カーフェリー「クノッソス・パレス」が入港してきました。



「MSC ファンタシア」の入港です。



大型カーフェリー「アリアドネ」の入港です。赤い朝日に船体が輝いていました。



エーゲ海諸島を廻るカーフェリー「ブルースター・ナソス」が出港してきました。



エーゲ海の島々を廻る高速カーフェリー「ヘレニック・ハイスピード」の出港です。



ピレウス港のクルーズ客船埠頭の全景です。左から「MSC シンフォニア」、「シルバー・ミューズ」、「アザマラ・パシユート」、「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」です。「アザマラ」と「エクスプローラー」の間に「MSC ファンタシア」の船体の一部が見えています。エギナ島行きのフェリーの船上からの撮影です。



エギス島航路船上から撮影した新鋭高速旅客船「エアロ 1」です。



ピレウス～エギナ島航路では半没翼型水中翼船も健在でした。



ピレウス港とサラミス島を 30 分で結ぶ小型客船です。時刻表も乗船券の販売所もなく、岸壁で乗船すると、船員が切符を売りにまわります。片道 3 ユーロでした。



サラミス航路に乗船すると海岸線に中古船、修理船などが係留されているのが見られます。船名と由来は帰国してから調べますので、とりあえず写真のみの紹介です。



サラミス島の港に並ぶ両頭フェリー群です。順番に車を乗せて対岸のピレウスの港に運びます。わずか 10 分ほど の航海ですが、この隻数にはいつも驚かされます。この画面の右側にも同じくらいの数のフェリーが並んでいました。

ピレウス港を出港すると翌朝に到着したのはエーゲ海の最後の寄港地ミコノス島でした。ここも、サントリニ島と並んでエーゲ海の島々の中では最も人気の観光スポットです。大型クルーズ客船の他、在来型カーフェリー、超高速カーフェリー、高速旅客船が頻繁に出入りしており、シップウォッキングで大忙しましたが、その合間にみて有名な風車のある風景や、船を眺められるレストランでギリシャ料理を楽しみました。



岸壁に着岸した「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」のすぐ近くに「アロヤ」が錨泊しました。元スタークルーズグループの「ドリーム・ワールド」のようです。



この日、ミコノス島に寄港したのは 4 隻の大型クルーズ客船でした。右端が岸壁に着岸した「エクスプローラー・オブ・ザ・シーズ」、その左に「MSC アルモニア」、さらに「アロヤ」、「コスタ・デリツィオーサ」です。この 4 隻でたぶん 1 万人近くが、この日に島の観光を楽しんだものと思われます。クルーズ客船のおかげで島内経済がうまく回っているようです。



3 回目のミコノス島訪問で、初めてまともな島内観光もして、有名な風車も実際に見ることができました。



キャビンのベランダから撮影した高速カーフェリー「ユーロチャンピオン・ジェット」の入港風景です。背後に見えるのは「MSC アルモニア」と「コスタ・デリツィオーサ」です。



カーフェリー「エカテリニ P」の着岸風景です。大型クルーズ客船岸壁と、カーフェリー・高速旅客船埠頭が一体になっています。



超高速カーフェリー「チャンピオン・ジェット 2」の出航風景です。錨泊中のクルーズ客船は、風向きによって向きが変わり、朝は 2 隻が一列に見えたのが、夕刻にはほぼ平行になりました。左が「MSC アルモニア」、右が「コスタ・デリツィオーサ」です。この日は強風が吹き、各船とも両舷の錨を入れていました。